



プラノジャンガジョリ村での第6回ワークショップにて阪神大震災の教訓と経験を共有する SEEDS Asia スタッフ (ネパール)
SEEDS Asia's staff member sharing the experiences and lessons of the Hanshin Great Earthquake
at the 6th Workshop in Purano Jhangajholi village, Sindhuli District, Nepal

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

Table of Contents Vol.57 (Mar., Apr. 2017)

- 熊本：熊本地震被災者支援
 - 丹波市：丹波市まちづくり協働事業
 - 東北：東日本大震災被災者支援事業
 - バングラデシュ：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
 - インド：参加型コミュニティ防災推進事業
 - ミャンマー：USAID の能力強化支援プロジェクト
 - フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
 - ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト
& 2015 ネパール地震被災者支援事業
 - 日本：防災講演会の講師派遣
 - 本部からのお知らせ
-
- Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
 - Joint Project with Tamba City on Community Development
 - Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
 - Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
 - India: Project on Participatory Community-Based DRM
 - Myanmar: Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
 - Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
 - Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees & Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015
 - Japan: Dispatch of lecturers for DRR classes
 - Announcements from Headquarters



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072
3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan
神戸市東灘区岡本3-11-30-302
Tel: 078-766-9412
Fax: 078-766-9413
Email: rep@seedsasia.org
Web: www.seedsasia.org
Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>

熊本地震被災者支援

【赤い羽根共同募金】

震災から1年を迎えて

4月14日、熊本地震から1年を迎えました。熊本県内では4月時点で167人が震災関連死と認定されています。

宇城市で被災された方々からは、「今は仮設住宅に住めて助かっているが、今後のことを考えると不安」という声が多く聞かれます。しかし、「震災前は隣に住んでいる人と話したこともなかったが、避難所で仲良くなって、今ではお互いの家を行き来している」「これまで、地震のニュースを聞いても他人事だったのが、今は心から共感して、自分も何かをしないとけないと思うようになった」など、震災をきっかけに前進しようとされている人々も見受けられます。



みなし仮設住宅への訪問

今後の課題・方針について

地域支え合いセンターでは、4月から新体制となり、コミュニティ活動を担う補助員も新たに加わりました。SEEDS Asia は早期に新体制構築ができ、時間の経過とともに多様に変化するニーズに対応できるよう、引き続きセンターの支援を行っていきます。

仮設住宅では、住民同士が知り合うきっかけづくりとなるお茶会からコミュニティ活動を推進してきました。顔見知りの機会の提供という目的は達成できたため、今後は徐々に住民が主体となってコミュニティ活動を行えることを目指して支援を行います。同時に、イベントだけではなく、個別にも対応できるように、集会所の「開放日」を設け、気軽に相談ができる環境を整えました。

さらに、被災者支援に関わる機関で月1回実施している生活復興支援連絡会議では、高齢者世帯への緊急時対応の体制を強化する協議が行われました。長期化に伴い、深刻になる被災者への支援体制づくりとともに、きめ細かいサポートを行っていく予定です。



生活復興支援連絡会議

丹波市：丹波市まちづくり協働事業

【丹波市まちづくり協働事業 /CWS Japan (UMCOR)】

学校と地域との連携による防災教育事業、2年次開始！

2014年8月に豪雨による水害を経験した丹波市の「復興まちづくり協働事業」では、同市の教育委員会や学校と協働で、地域との連携による防災教育の実践モデルづくりを目指しています。第1年次であった2016年度は、各学校による防災授業の取組み実績や、様々な方にご協力頂き作成した副教材「心 つなぐ」、各防災授業や副教材の活用を年間計画に位置付けた「モデルプラン」を成果として残すことができました。2年目の2017年度は、地域との連携による防災教育の実践に取組む研究指定校が4校から7校に増え、1年次の成果物を定着させるための授業案づくりやビデオ教材の開発を予定しています。

4月25日、丹波市教育委員会、丹波市復興推進部とくらしの安全課（防災担当）、SEEDS Asia の4者で「防災教育推進連絡会議」を開催しました。この会議は丹波市の防災教育充実のカギとなる部門横断的な情報共有や「つながり」づくりを目的としており、1年次について報告するとともに、各部署でどのような連携が可能かを模索する場となりました。教育委員会学校教育課副課長は、ご自身の経験から「災害が起きてからどの部署のどの担当者と繋がるべきかを探ったり、子どもへの防災教育を開始したりするのは遅い。『備え』の充実によって、災害発生時に子ども達への影響を軽減できるはずだ」と発言していました。



副教材「心 つなぐ」の取材に協力して下さった方々に完成品をお披露目

また、4月27日には7校の防災教育研究指定校との顔合わせを行い、2016年度から引き続き研究指定校となる4校には、前年度の実績を発表して頂きました。昨年度の各校の素晴らしい取組みが実例として示されることで、新しく研究指定校となる学校にも防災教育実施についてのアイデアを持って頂くことができました。



記念すべき第1回防災教育推進連絡会議

三輪崎の湊川大介区長は「唐桑と三輪崎のこれまでのつながりを素晴らしい形で見せて頂いた。地元の人にも興味を持ってもらえたと思う。これからも私たちの心と心のつながりを深めていけるよう働きかけていければ」と感想。唐桑大漁唄込復活推進実行委員会の鈴木伸太郎会長は「カツオ漁は今でも三輪崎から伝わったものが生かされているし、室根山の祭りにも熊野から伝わったものが残っている。劇はそういった歴史の一場面を見せてくれた。ここから唐桑までは1000キロの距離があるが、両者は時間を超えてつながっている」と語りました。

共に大きな災害を受けながら助け合ってきた新宮市と唐桑町、公演前日に行われた交流会では新宮市長をはじめ大勢の方々の心のごもった歓迎を受けました。災害は時としてより強い関係を歴史の中から紡ぎ出すのでしょうか。



熱演に大きな拍手が送られました

東北：東日本大震災被災者支援事業

【自主事業】

郷土芸能劇「唐桑ものがたり」和歌山公演

和歌山県新宮市と気仙沼市唐桑町とのつながりを伝える郷土芸能劇『唐桑ものがたり～海の古道～』が3月26日、新宮市の三輪崎会館で上演されました。SEEDS Asiaが脚本、演出を担う演劇公演はこれで4年目。唐桑の訪問団95人が熱演し、三輪崎郷土芸能保存会メンバーも鯨踊りを披露して両者のつながりを劇中で体現。約300人の来場者が大きな拍手を贈りました。

約1300年前に東北へ熊野の神を勧請した際の上陸地点が現在の唐桑であるとされ、江戸時代半ばには三輪崎の漁師からカツオ漁を学んでいます。新宮市との交流は現在も続いており、2011年東日本大震災時には新宮市から唐桑に救援隊が送られ、同年の夏に発生した紀伊半島大水害では、唐桑からの支援がありました。

開演のあいさつで唐桑大漁唄込復活推進実行委員会和歌山訪問団の白幡勝美団長は、「気仙沼市が約20年、カツオの水揚げ1位を続けているのは江戸時代のことがとても大きい。大震災のときも助けて頂いた。どれだけ心強かったか」と新宮との交流を紹介。「これからも皆さんとのつながりを深め、この劇で少しでも何かを返すことが出来れば」と語りました。

劇は1300年前の朝廷による蝦夷（えみし）征伐、その唐桑での両者の対決を軸に進行。神であるクジラと非業の死を遂げた丹鶴姫の娘「鶴姫」が唐桑に流れ着き、唐桑の民とともに戦います。江戸時代に三輪崎の漁師からカツオ漁を教わった漁師と金太郎がタイムスリップして唐桑に味方するなど、随所に三輪崎とのつながりを示唆。最後には合戦に敗北した唐桑の民に代わって、丹鶴姫とクジラ、鶴姫が朝廷軍を退け、唐桑の民を蘇らせます。

劇中、唐桑で古くから唄い継がれている大漁唄込などの郷土芸能も披露。熊野へ帰ったクジラがその身を捧げ、飢えに苦しむ民を潤す場面では、クジラの発見者として三輪崎の住民を学童保育「パンダハウス」の児童らが好演。次いでクジラを仕留めるシーンを三輪崎郷土芸能保存会メンバーらが渾身の鯨踊りで表現しました。唐桑での戦も朝廷との融和という形で落ち着き大団円を迎えた物語に、満員となった300名の来場者全員が大きな拍手を贈りました。

【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

事業終了のご報告

東日本大震災が発生した2011年よりCWSのご支援で開始し、2014年からはUMCOR-CWS Japanのご支援により実施してきたSEEDS Asiaの東日本大震災の被災者支援事業は、2017年3月をもって終了いたしました。長きにわたって本事業にご理解・ご支援賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

2017年3月で、東日本大震災の発生から6年目を迎えました。被災地では、災害公営住での生活を開始する方も増え始めた一方、高上げ造成がようやく完成し始め、これからやっと住宅再建ができる方も多いという状況です。仮設住宅での生活を続けている方もまだまだ多く、まだ復興途上の段階です。このような背景の下、被災地では、災害公営住宅や、住宅再建後のコミュニティづくり、コミュニティ防災が必要とされています。そこで、気仙沼市では、SEEDS Asiaの元現地スタッフとステークホルダー有志により「気仙沼防災教育推進委員会」が組織され、これまでSEEDS Asiaが実施してきた学校とコミュニティの連携による防災教育・コミュニティ防災の活動を引き継いで実施していくこととなりました。

SEEDS Asiaとしても、気仙沼防災教育推進委員会の活動を応援してまいり所存です。そして、これまでの支援活動で得られた経験と気仙沼市とのつながりを大事にし、国内外の災害救援や防災支援活動において、東日本大震災の教訓を継承してまいります。

皆様方におかれましても、今後の被災地の復興に対して、そしてSEEDS Asiaの活動に対して、引き続きご理解とご支援賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



バングラデシュ

【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

モデルコミュニティ選定に向けて

北ダッカ市で実施した災害リスクアセスメント調査をもとに、これからコミュニティでの活動を開始します。まず3つのコミュニティをモデルとして選定し、活動を展開していく計画です。モデルコミュニティは、持続性の観点から、本事業のために新しくグループを結成するのではなく、何等かのコミュニティ活動を日常的に行っている既存の住民グループから選定します。3月から4月にかけては、北ダッカ市内に存在する住民グループの調査と訪問を行いました。北ダッカ市では、市や区が住民グループの登録、管理をするといったシステムはないため、調査は各区長や廃棄物処理を担当する各区の市職員への聞き取りを通して行いました。

コミュニティの調査をする中で、自主社会福祉グループが市内に複数存在することが分かりました。自主社会福祉グループというのは、地域のより良い住環境のために活動を行う住民グループで、メンバーが会費を出し合い、夜間警備やゴミの収集、各種行事の企画・運営等を行っています。都市化が進み、人口増加が続くダッカ市では、地域コミュニティの希薄化も進んでいます。私たちが訪問した自主社会福祉グループのリーダーの1人は、「以前はこの地域では住民みんなお互いのことを知っていたが、ここ数年、人口が増え隣に誰が住んでいるのかも分からなくなった。住民同士のつながりを再度強くするためグループを結成した」と、活動を開始した経緯を話してくれました。



自主社会福祉グループ訪問

こうした住民グループを訪問し話をすることで、地域防災について関心を持ったグループには、別途ミーティングを行い災害と防災について話し合うとともに、本事業の内容を説明する時間を設けています。すでに防災活動を行っているグループは現状ないため、彼らにとっては新しいトピックです。ほとんどの住民にとって、ダッカでの災害というと1988年や1998年の大洪水が思い出されますが、地震や、最近市内で頻発している火事への関心も高まっています。防災は政府の責任だと考える人が多い一方で、ミーティングを通して、自分たちの役割だと考えるメンバーもいました。

モデルコミュニティは、このような自主社会福祉グループから、メンバー構成、意欲、持続性等を考慮して選定する予定です。



自主社会福祉グループとのミーティング・コミュニティ内の学校にて



インド

【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

SEEDS Asia はインドのバラナシ市において、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメイトスクール (CS)」の5校と、CSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、コミュニティ防災組織のモデルづくりを進めています。2017年3月、4月は下記の活動を行いました。

事業代表者による協議会

4月8日、クライメイトスクール5校の各校代表教員5名、5つの地域防災協議会の各協議会代表1名とウツタルプラデーシュ消防署から3名が集まり、事業の活動に関する意見や、今後どのように活動を発展させ持続させていくかについて話し合いました。「事業に参加していない学校や社会にも、活動を知ってもらい、同じような研修を受けてもらいたい」などの意欲的な意見が活発に出されました。



バラナシ子ども気候・防災新聞 編集委員会協議会の様子

消防に関する講義とデモンストレーション

4月15日、消防と救助の講義とデモンストレーションを、ウツタル・プラデーシュ州バラナシ消防署の指導のもと、CSの一つであるラーズガットベサント校にて実施し、同学校教員47名、学生寮職員約40名、生徒300名、別のCS2校の教員8名が参加しました。参加者からは、「火事には種類があり、火事によって対応の違いがあるのがわかった」などの感想をいただきました。



消防に関する講義とデモンストレーションの様子

子ども気象・防災新聞記者が消防署を訪問

バラナシ事業では、クライメイトスクール(CS)の学生による気象新聞『ブラハリ』を発行しています。2017年4月17日、シュリ アグラセン カンチャインター女子校のブラハリ記者3名がウツタル・ブラディッシュ消防署を訪問し、4月21日には、セントラル ヒンドウ 男子校のブラハリ記者3名が国家災害対応部隊を訪問し、それぞれ署長と部隊長をインタビューしました。救命の実務に関する話を伺い、また、はしご車や救命道具などに実際に触れることを通し、それぞれの仕事を身近に感じたようです。インタビュー内容は5月発行の『ブラハリ』に掲載予定です。



「ブラハリ」の記者

応急処置、水と衛生に関する研修

国家災害対応部隊の指導の下、「応急処置、水と衛生」に関する研修を実施しました。4月22日と23日はCSの聖アトゥラナンド修道校にて、29日と30日はシュリ アグラセン カンチャ インター女子校にて、それぞれ教員12名と地域防災協議会8名と、教員20名と地域防災協議会21名が参加しました。参加者ひとりひとりが応急処置の方法を体験することができ、研修終了時の感想も満足度の高い結果となりました。普段は200名から千人規模の研修を担当する国家災害対応部隊ですが、「SEEDS Asiaからの依頼で実施した3回の研修のうち、20名と小規模のものもあったが、自分が過去行った数々の研修の中でも最も充実したものだった。」という評価をいただきました。



聖アトゥラナンド修道校での研修の様子

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

社会福祉救済復興省・復興救済局をカウンターパートとして、ミャンマー国家防災マネジメントトレーニングセンターにおける防災マネジメントトレーニング及び防災に関わる研究や啓発のプロジェクトを実施しています。2017年3月から4月の活動は下記のとおりです。

(* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)

CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) に関する冊子の作成

ヤンゴン工科大学及びダゴン大学との連携の下、既に実施した CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) の調査結果をまとめた冊子の作成を行っています。冊子の内容には調査方法、調査内容、26地区の対応力評価、調査結果に基づく政府機関への助言などが含まれており、政府機関、現地 NGO、国際 NGO を対象に配布される予定で継続的に編集作業を行っています。

大学機関を対象とした防災調査に関する研究論文のサポート

CCRI 及び CDRI の調査結果を研究した論文の発表が予定されています。それに伴い、SEEDS Asia は学術論文に関する参考書及び技術的文献をヤンゴン工科大学並びにダゴン大学に寄贈することを予定しており、5月12日に論文の著者を対象としたワークショップが開催される予定です。

防災活動センターへ百葉箱の寄贈準備

損保ジャパン日本興亜環境財団様より環境保全に関する助成により防災教育の一環として百葉箱をコンジャンゴン地区防災活動センターに寄贈する計画をしています。毎年実施しているサイクロン・ナルギス(2008年)の犠牲者のための追悼式に合わせ、防災活動の啓発活動の一環として百葉箱の利用に関するワークショップ及び設置式を5月2日に実施する予定です。

チーミンタイン地区での地震防災訓練に参加

社会福祉救済復興省・復興救済局からの依頼により、ヤンゴン市内に位置するチーミンタイン地区で開催された地震防災訓練に参加しました。防災に関する啓発活動のため、3月18-19日に実施され、シーズアジアは当地区のコミュニティの方々に向け、移動式防災教室を利用した地震に関する防災教育を提供しました。



【2015 ネパール地震被災者支援事業】

ネパール地震から2年、被災地の今

2015年4月25日にネパールを襲った地震からこの4月で2年になりました。9千人弱の命を奪う甚大な被害となったネパールの被災者に対し、SEEDS Asia は国内外から寄せられたご支援をお預かりし、シンズリ郡ドゥンジャ地区において、被災住民への生活支援物資や子どもたちへの学習キットを提供しました。また、損壊した学校や教育事務所の備品整備に加えて、学校教員に対して地震の正しい知識やストレスを抱える子どもへの対処法に関する研修を実施してきました。そして、2年が経過した現在は「よりよい復興」に向けたコミュニティの防災活動支援を行っています。

被災から2年を機に、支援物資の活用状況のモニタリングのため本部スタッフがネパールを訪問しました。震災後には一つの椅子しか残っていなかった教育事務所が今は、しかるべき機能を果たせるようになったこと、文房具などの学習キットの提供によって、学校を中退した生徒が同地区では殆どいなかったことなど、緊急支援の効果を確認しました。

一方、同地区の校舎の多くは再建の目途が立っておらず（同区内36校中5校のみ再建済）、仮設校舎も無い場所では半壊校舎を利用せざるを得ない状況にあること等、教育セクターにおける復興の遅れを認識させられました。

この場を借りまして、緊急支援へのご支援・ご協力を頂いた方々に改めて御礼と状況のご報告を申し上げますと共に、これからもネパールの被災地支援を続けて参りますので、どうか引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



緊急支援で寄付された支援物資についてモニタリングを実施している様子



被災したままの校舎を利用せざるを得ない状況



避難訓練の実施行程について参加者全員で確認



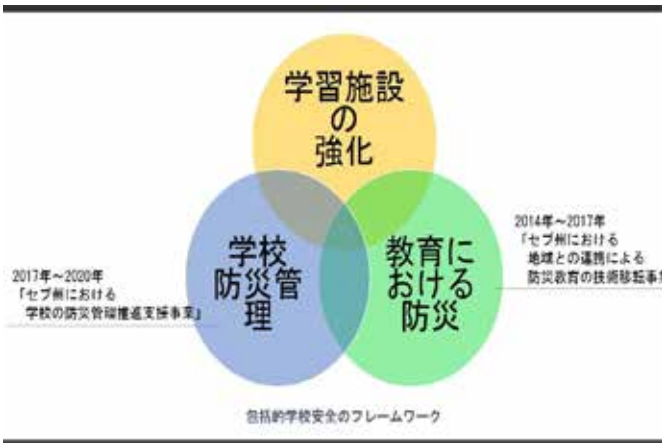
【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

学校防災管理の支援事業を開始！

2014年11月から実施してきたJICA草の根事業「セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業」に続き、2017年4月から「セブ州における学校の防災管理推進支援事業」を開始します。2017年3月までに実施してきた先行事業は、子ども達の災害に対応する能力を育む「防災教育」に着目したものでしたが、本事業では学校の管理面で災害の影響をなるべく小さくするための「学校防災管理」に取組みます。2つの事業を通じて、フィリピンの学校における災害対応能力向上に向けた相乗効果を図ります。

フィリピン国教育省は、国連などが定めている「包括的學校安全の枠組み」に基づいた学校防災に取組んでおり、先行事業の「防災教育」と本事業の「学校防災管理」は同枠組みの3つの柱のうちの2つに合致するものです。教育省も学校防災管理のためのガイドラインを発行するなど、年々学校防災への取組みを強化している一方で、学校レベルでの実施・普及には時間が掛かる見込みです。そこでSEEDS Asiaは、先行事業と同様、阪神・淡路大震災以来20年以上に渡る学校防災の経験・知見を持つ兵庫県教育委員会と連携し、防災教育実践の実績を持つセブ州で、学校防災管理の実践モデル構築の支援に取組みます。

皆様のご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。



包括的學校安全のフレームワーク

【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

プラノジャンガジョリ村にて防災トレーニング完了

社会福祉法人中央共同募金会（赤い羽根）のネパール地震災害福祉活動支援募金からの助成により、SEEDS Asia はシンドゥリ郡の3つの村を対象に地域住民による防災活動の支援を実施しています。4月にはプラノジャンガジョリ村にて第5回～第7回の防災ワークショップが開催されました。本部スタッフも参加した第6回目のワークショップでは、今までトレーニングを受けてきた22名が備えの重要性を伝える寸劇を自ら考案し、地域住民46名に対して公演会が行われ、子どもから年配の方々まで幅広く防災について考えるきっかけとなりました。続いて行われた第7回ワークショップでは、本部スタッフがカウンターパートであるCDCCS（災害・気候変動研究センター）と協力し、22名のコアメンバーとワークショップ結果のレビュー（振り返り）を行うと共に、現在抱えている地域の改善に向けたアクションプランを策定しました。地域からは、村の防災計画を作ること、啓発活動を継続すること、そして能力強化に向けた技術訓練を行っていくことの計画が挙げられました。

現在、ネパールでは地方選挙の期間中ですが、6月以降に、あと2つの村（ジャンガジョリ・ラタマタ村、クセスワ・ドゥンジャ村）で、それぞれ計7回の防災ワークショップを実施する予定です。



村内での防災の重要性について住民が実施した劇の様子



今後の防災活動についての改善策を策定する第7回ワークショップの様子（プラノジャンガジョリ村）



【講師・講演会派遣】

SEEDS Asia では、全国の学校や地方自治体、防災や地域づくりに取り組む団体や、私企業などの民間組織の講演会やイベント等に講師を派遣しています。2017年3月～4月には以下の講師派遣を実施しました。

豊中市立第12中学校における防災講演（於：大阪府・豊中市）

2017年3月10日、SEEDS Asiaの海外事業統括・大津山光子が、大阪府豊中市第12中学校にて「神戸から、まいて育てる防災の種 - 同じ涙を流さないために -」を演題に講演を行いました。

同講演会は、一般社団法人ソーシャルギルドが同中学校を中心とする地域の方々向けに実施している防災講話シリーズの一環で、約30名の地域の方々や中学生の生徒さんが参加されました。内容は幅広い年齢層を対象として、防災クイズに始まり、講話と共にミャンマーの防災学習ツールキットを用いて楽しく防災について学んで頂ける工夫を重ねました。また、SEEDS Asia が事業を実施している国々から集められた緊急持ち出し袋の紹介と、実施に緊急時の食べ物を実際に食べてみるという体験型の講演会が行われました。参加された方々は、ミャンマーやアジアの国々で、戦時中に日本でも食べられていた糠が広く食べられていることに驚く他、「インドのドライ豆が美味しい！」と評判でした。国際理解と共に防災理解を深めた、美味しく楽しい講話をなりました。

SEEDS Asia では、今後も引き続き講師派遣を行います。幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方はSEEDS Asia 事務局 講師派遣係 (rep@seedsasia.org) までご連絡をお願い致します。



校内に掲示された3月12日の講演についてのポスター

本部からのお知らせ

新スタッフ紹介

フィリピン事務所（国枝 葉）

みなさま、初めまして！4月より入職し、5月よりフィリピン事業を担当させていただく国枝 葉と申します。

フランスの大学院にて国際協力を学んだ後、日系IT企業の国際部やCSR部にてプロジェクト管理の仕事をしておりました。この度フィールドでの活動を希望し、仲間に入れていただけることになり、大変嬉しく思っております。

タイ、マレーシアなど他のアジアの国は出張経験があるものの、セブ島は10年以上前に一度渡航したきり、フィリピン人とも数人一緒に仕事をしたことがある程度ですが、早く貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



 Kumamoto Earthquake

Central Community Chest of Japan

One year from the earthquake

It has been one year since the Kumamoto Earthquake occurred in 14th April last year. Until this April, 167 people have been certified dead due to the earthquake in Kumamoto.

Many earthquake-affected people said: "It's helpful for us to be able to stay in temporary housing, but when we think about the future, we feel worried". However, there are also people who take the earthquake as an occasion to move forward, they said: "Before the earthquake occurred, I had never talked to the people who live next door, but we have become close and often go to each other's house now". "Until now, each time I heard the news about earthquakes, I used to think that it's only other people's problem, but now I empathize and have a thought that I need to do something, too".



A visit to public-funded rental temporary housing

About future issues and plans

In the Community Mutual Support Center, there has been a new set-up that community activity assistants have been newly included. SEEDS Asia will continue to support the Center so that a new system will be promptly established and be able to response to the needs that change diversely.

In temporary housing, from the tea gatherings that have created opportunities for the residents to know more about one another, community activities have been promoted. Since the objective of providing chances for residents to get acquainted with one another has been achieved, from now SEEDS Asia's support will aim at conducting more and more community activities in which the residents are the core element. At the same time, an "Open day" will be set up in each gathering place to prepare for the residents an environment where they feel free to be consulted in individual even when no event is organized.

Moreover, in the Liaison Conference for Life Recovery Support, which is organized once a month as an agency that works to support earthquake-affected people, a discussion was held to discuss the improvement of emergency response system for households of the elderly. We plan to provide meticulous support, besides the development of a support system for affected people that has become more serious as it lengthens.



At the Liaison Conference for Life Recovery Support

 Tamba City

Joint Project with Tamba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

2nd Year of DRR Education in cooperation with communities has started!

SEEDS Asia in partnership with Tamba City Board of Education commenced the 2nd year of "Joint Project for Community Development" in Tamba City, which experienced sediment flows and flooding triggered by a massive rainfall in August 2014. This Project aims at school-based DRR Education in cooperation with local communities. The first year was completed with successful outputs such as sound practices at each school, a supplementary document and a "model plan" which addresses each DRR Education activity in the yearly plans of school operation.



Community members who provided their resources for the supplementary document were looking at the printed version

In the second year, the number of the appointed DRR schools will increase from 4 to 7 and those schools will develop lesson plans utilizing the outputs of the previous year. SEEDS Asia will take charge in making an audio-visual education material.

On 25th April, an inter-divisional meeting for the promotion of DRR Education was attended by the City Board of Education, Life Safety Division and Recovery Promotion Department and SEEDS Asia. The purpose of this meeting is enhancing the communication and connectivity among different divisions. The outputs of the first year were shared and an open discussion on how different divisions can cooperate with each other was held. The Vice Manager of the School Education Division of the Board of Education delivered a message based on his own experience in his previous school: "It is too late to seek connections with other divisions of the City or start DRR Education after a disaster occurs. By being prepared, the impact of disasters to our children can be lessened."



First meeting for the promotion of DRR Education

On 27th April, the first meeting with the 7 appointed DRR schools was held, where the 4 appointed schools from last year shared their outputs of DRR Education implementation. All the successful initiatives by those schools inspired the newly appointed schools to have some ideas on their own implementation of DRR Education.

 **The Great East Japan Earthquake**

Self-funding project

Local performing arts' drama "The story of Karakuwa" performed in Wakayama

The play in local performing arts named "The story of Karakuwa- The old path of the Sea" , which tells the bond of Shingu City, Wakayama Prefecture and Karakuwa Town, Kesennuma City, was performed at Mitsuwazaki Hall in Shingu City on 26th March. This is the fourth year that SEEDS Asia has been in charge of script-writing and directing of the play.

The bond of both sides was embodied during the play as 95 visitors from Karakuwa gave an enthusiastic performance while the members of the Association for Preservation of Traditional Art in Mitsuwazaki also introduced the Kujira-Odori (Whale Dance). About 300 audiences gave a big round of applause.

About 1300 years ago, in ceremonial transfer of Kumano deity to a new location in Tohoku (East Japan), the first landing destination was the current Karakuwa; besides, bonito fishing was also learned from Mitsuwazaki in the middle of Edo era. The exchange relation with Shingu city has continued until now. In 2011, when the Great East Japan Earthquake and Tsunami occurred, a relief group was sent from Shingu city to Karakuwa; when a big flood occurred in Kii Peninsula in the summer that year, Karakuwa sent their support.

In the opening greeting, Mr. Katsumi Shirahata- head of the visiting group from Wakayama, the Committee for the Promotion of Revival of Traditional Fishing Music in Karakuwa introduced the exchange with Shingu city: "The event in Edo era played an important part in bringing about the first rank for Kesennuma city in fish catch in 20 years. We were also helped in the time of the Great East Japan Earthquake; it' s hard to tell how much it helped in making us feel strong" . He also added: "From now we would like to deepen our bond with you, we hope that we can somehow return to you through this play" .

The play 's central story is about the confrontation between two sides in Karakuwa when the Imperial Court subjugated Emishi/Ebisu (a group of people who lived in the Tohoku region in northeastern Honshu). The deity whale (Kujira) and Tsuruhime- daughter of Tankakuhime, who died a violent death, drifted to Karakuwa and fought with the people of Karakuwa. The fishermen who learned bonito fishing from the fishermen from Mitsuwazaki in Edo era and Mr. Kintaro travelled back in time to fight on the side of Karakuwa, which implies the bond with Mitsuwazaki. In the end, on behalf of the people of Karakuwa who were defeated in the battle, Tankakuhime, Kujira and Tsuruhime fought off the Imperial Court' s military and revived the people of Karakuwa.

During the play, the Dairyou Utaigomi (meaning "Song of Big Catches"), which has been sung continuously for a very long time in Karakuwa, was also introduced. In the scene that Kujira sacrificed itself after coming back to Kumano to benefit the people who suffered hunger, the children from the after-school activity center "Panda House" acted well the part of Mitsuwazaki' s residents who discovered Kujira. The next scene where Kujira was brought down was conveyed through Kujira Odori (Whale Dance) by members of the Association for Preservation of Traditional Art in Mitsuwazaki with all their might. The harmonious ending about the reconciliation with Imperial Court in the battle in Karakuwa was also given a big round of applause by all 300 audiences.

Mr. Daisuke Minatogawa, the Head of Mitsuwazaki ward commented: "The bond until now between Karakuwa and Mitsuwazaki was expressed in such a wonderful way. I think local people feel interest, too. It's good to begin to work to deepen the bond that links our hearts from now". Mr. Shintaro Suzuki, the Chair of the Committee for the Promotion of Revival of Dairyou Utaigomi (Traditional Fishing Music) in Karakuwa said: "In bonito fishing, what has been learned from Mitsuwazaki is still being utilized even now, besides, what was conveyed from Kumano still remains in Murone Matsuri (the Festival of Mount Murone). The drama showed a part of that history. Karakuwa is 1000 kilometers far from here, but both sides have been connected over time."

Shingu city and Karakuwa town both suffered big disasters and helped each other. One day before the performance, we received warm welcome from many people in the exchange meeting, including the Mayor of Shingu city. Throughout history, perhaps times of disasters often become opportunities for stronger relationships to develop.



A big round of applause was given to the enthusiastic performance

[Project funded by UMCOR • CWS Japan](#)

[Report on completion of this project](#)

The project by SEEDS Asia to support the affected people in the Great East Japan Earthquake and Tsunami which was launched in 2011 under the assistance of CWS and has been implemented since 2014 under the assistance of UMCOR-CWS ended in March 2017. We would like to express our deep gratitude to your kind understanding and support for this project during its long duration.

It has been the sixth year since the Great East Japan Earthquake and Tsunami occurred. In earthquake-affected areas, while the number of people who begin their life in public housing for recovery from the disaster has started to increase, the construction of embankment has finally completed for many people to start building new houses. Many people are still continuing to live in temporary housing, the recovery process is on its way.

Under this circumstance, the development of community and community-based disaster risk reduction are considered necessary after the construction of public housing for recovery from the disaster as well as new houses is completed in affected areas. Therefore, in Kesennuma city, the "Committee for the Promotion of disaster risk reduction (DRR) education in Kesennuma" has been formed from former local staff members of SEEDS Asia and stakeholders to continue to take over the activities in community-based DRR and DRR education through cooperation between schools and communities that SEEDS Asia has implemented until now.

SEEDS Asia intends to support the activities of the Committee for the Promotion of DRR Education in Kesennuma. Moreover, SEEDS Asia will value the relationship with Kesennuma city and the experiences in previous support activities, and inherit the lessons learned in the Great East Japan Earthquake and Tsunami in its disaster relief and DRR assistance activities in Japan and abroad. We hope to continue to receive your kind understanding and support for the recovery of earthquake-affected area and the activities of SEEDS Asia.

 Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

[Preparation for Model Community Selection](#)

Based on the risk assessment conducted at ward level in Dhaka North City Corporation, community activities are going to begin. Three communities will be selected as model communities to start with. From sustainability point of view, instead of forming DRR communities newly, we will work with existing ones that have been doing some kind of community work in their locality. For this, March and April were spent to research those communities and make visits. Since such community list is not available at city or ward office, it was done through field visits.

In our community research, we found that there are many groups that are registered as voluntary social welfare agencies to the Ministry of Social Welfare. They are groups of local residents who work for a better living environment in their area. Their activity includes ensuring security, managing waste, organizing cultural and recreational events, etc. In Dhaka, as urbanization progresses and population grows, community bonds are weakening. "People used to know each other very well but due to increasing population, now we do not know who lives next door. In order to strengthen connection among residents in our area we formed our group", a leader of one of the groups shared with us.



Community research and visits

For those groups that showed strong interest in community DRR, we hold another meeting to discuss disasters and disaster risk reduction, and to explain our project. No group implements DRR activity at the moment, so DRR is totally a new topic to them. To most of the residents, 1988 and 1998 flood are the biggest disasters Dhaka ever experienced. In addition, earthquake and fire have gained more attention in recent years. While most people believe that government is responsible for DRR, some realized through discussion that it's also their responsibility.

We are going to select model communities from these groups, considering group structure, motivation, and sustainability.



Meeting with a voluntary social welfare group at a school in their community



India

Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

SEEDS Asia has been promoting a model of the community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as a focal point of DRR/Climate Change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area. The activities operated in March and April 2017 were as follows.

Stakeholder meeting

On 8th April 2017, the representatives from five climate schools and citizens as well as three officers from Uttar Pradesh Fire Service reviewed our ongoing project and discussed its development and sustainability in the future. We could have various opinions, including an enthusiastic suggestion that we should make an effort to make the public aware of our activities so that those who had not participated in the project could have the same opportunities like training.



Stakeholder meeting

Firefighting Demonstration

On 15th April 2017, SEEDS Asia organized the Lecture and Demonstration on Firefighting and Rescue in collaboration with Uttar Pradesh Fire Service at Rajghat Besant School. The participants were Rajghat Besant School's 47 teachers, 40 dormitory staff members and about 300 students as well as 8 teachers from two other climate schools. A participant commented that they learned that there were many types of fire and the responses also had to change accordingly to each type.



Lecture and Demonstration on Firefighting and Rescue

Prahari reporters conducted interviews

In the Varanasi project, we support climate schools' students to issue 'Prahari', a weather and DRR newspaper. On 17th April 2017, Prahari's reporters from Shri Agrasen Kanya Inter College interviewed Chief Fire Officer of the Uttar Pradesh Fire Service while Prahari's reporters from the Central Hindu Boys School visited to interview the Commandant of the 11th National Disaster Response Force (NDRF), Varanasi on 21st April 2017.

Listening to their experiences in rescue work and touching rescue items, these reporters were likely to feel familiar with their emergency-agents' services. The interviews will be included into the next issue of Prahari in May.



Prahari's reporters

First-aid and WASH-PHAST Training

'First-Aid, Sanitary and Hygiene Training' was organized in collaboration with the 11th National Disaster Response Force (NDRF), Varanasi, at the Sant Atulanand Convent School on 22nd-23rd April and at the Aryan International School on 29th-30th April. 12 teachers and 8 associated society members at Atulanand and 20 teachers and 21 associated society members at Aryan participated. Every participant had a chance to practise each exercise. It led to successful training with the participants' satisfaction. NDRF, too, gave us a positive comment that the number of participants in this training was smaller than usual training with about 200 to 1,000 participants, but it turned out to be one of the best they had ever had.



First-aid and WASH-PHAST Training

SEEDS Asia is working on disaster management (DM) trainings, research and public awareness of disaster risk reduction (DRR) as a member of consortium of MCCDDM at Myanmar National Disaster Management Training Centre (DMTC) in cooperation with Relief and Resettlement Department (RRD) of Ministry of Social welfare Relief and Resettlement. The report on our activities of March and April 2017 is as follows.

(*Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc)

Drafting booklets on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) surveys

Booklets on Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI), which summarize the results of the surveys, are being drafted. They contain the information on research methodology, resilience of 26 townships, survey results, and policy recommendation to governmental agencies and will be distributed later to the concerned governmental agencies, NGOs and INGOs.

Support in academic DRR research paper targeted at Universities

Academic DRR research paper on CCRI and CDRI is planned to be published. SEEDS Asia is going to donate technical books and references on academic research paper to Yangon Technological University and Dagon University. In order to support the process, a workshop for the authors is going to be held on 12th May 2017 and preparatory works are in progress.

Preparation to donate a screen for weather observation to DRR activity center in Kungyangon, Yangon Region

A Stevenson screen for weather observation, which has been funded by SOMPO JAPAN Nipponkoa Environment Foundation, is going to be donated to Kungyangon DRR Activity Center-1 (DRRAC-KGG 1). On the day of the annual memorial ceremony for the victims of Cyclone Nargis, which occurred in 2008, training in utilizing the screen and the ceremony of its installation are going to be held in the DRRAC on 2nd May as an activity to raise public awareness of DRR.

Participation in an earthquake simulation drill in Kyi Myin Taing Township

Requested by Relief and Resettlement Department of Yangon, SEEDS Asia participated in an earthquake simulation drill in Kyi Myin Taing township in Yangon on 18th and 19th March 2017.



Myanmar

USAID MCCDDM Project:
Myanmar Consortium for Capacity Development
on Disaster Management

In order to raise the public awareness about disaster risk reduction (DRR), SEEDS Asia provided DRR education about earthquakes with Mobile Knowledge Resource Centre for community in the township.



All participants confirming the schedule of the evacuation drill



Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

[A New Project in Support of Promoting School DRRM in Cebu, Philippines has started!](#)

The Project for “Capacity Building on Disaster Risk Reduction Education (DRRE) through Cooperation with Local Community in Cebu Province” was successfully completed in March 2017. Following it is the “Support Project on School Disaster Risk Reduction and Management (SDRRM) in Cebu Province” starting in April 2017. The preceding Project focused on DRRE to nurture the abilities of children to deal with disasters, while the new Project will enhance school’s management capacity to lessen the impacts of disasters. These two Projects are expected to create synergies for safer schools.

The Philippine Department of Education (DepEd) is working on DRR at schools based on the “Comprehensive School Safety Framework” adopted internationally by the United Nations and other organizations. Both DRRE and SDRRM are of the Framework’s pillars. DepEd is strengthening its thrusts in school DRR, including distribution of the Guideline on SDRRM. However, actual implementation at school level is going to take quite a long time. With this, SEEDS Asia will collaborate with DepEd and Hyogo Prefectural Board of Education, which has more than 20 years of experience in SDRRM, to establish practical models of SDRRM in Cebu Province.

We greatly appreciate your continuous support and cooperation!



Nepal

Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015

[Two years after the Gorkha Earthquake and monitoring the current situation](#)

It has been two years since the Gorkha Earthquake occurred and killed around 9,000 people on 25th April 2015 in Nepal. SEEDS Asia and the team of SEEDS India supported the affected in Dumja area, Sinduli District through the kind donations received from well-wishers after the earthquake occurred. We provided not only family kits and school kits, but also conducted training in psycho-social support for teachers to help the children who need special care. Since that time, SEEDS Asia has been continuing to support "Build Back Better" process in recovery at community level.

After two years, with the aim of monitoring the effectiveness and the impact of our emergency response, SEEDS Asia staff from headquarters visited the target areas to monitor the situation. It was found that all the items which we provided have been functioning well under proper care and management.

Additionally, the officer in charge in Education Resource Centre in Dumja Area said that dropout rate in the area did not increase even after the earthquake, which might be a positive impact of immediate provision of school-kits to the children. However the process of recovery in education sector, especially the reconstruction of school buildings is still behind (five schools were reconstructed among thirty six collapsed schools in the area). We keep seeking your kind support and cooperation to realize “Build Back Better” in communities and schools in Nepal.



Monitoring of relief items donated after the Gorkha Earthquake in 2015



Using a school building with partial destruction after the Gorkha Earthquake



Drama show by the community members to raise awareness of DRR

Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees (VDCs)

Completion of DRR Training Workshops in Purano Jhangajholi village

By the support of Central Community Chest of Japan, SEEDS Asia is implementing Community-Based Disaster Risk Reduction project in three VDCs in Sindhuli District in Nepal. In April, the 5th and 7th DRR workshop (WS) were held in one of our target village called Purano Jhangajholi.

For 6th WS, 22 members who had been participating in ToT training until 4th WS performed their knowledge through drama, song and dance to enable all villagers from children to senior residents to understand the importance of disaster risk reduction, especially preparedness during normal time. On 7th WS, SEEDS staff from headquarters and CDCCS (Center for Disaster and Climate Change Studies) - a Nepalese organization joined with 22 core members to review the workshop's results and make a plan for the improvement of community in terms of DRR. During the discussion, the participants urged the needs of making DRR management plan for the community, continuing the awareness activities to increase basic knowledge and skill training to cope with emergency.

Since the local election is scheduled currently in Nepal and administrative reforms are on progress, the next WS in the other two villages- Jhangajholi Ratmata and Kusheshwar Dumja will be held after June.



Making a plan for the improvement of DRR at 7th Workshop in Prano Jhangajholi



Japan

[Dispatch of lecturers to conduct DRR class or event]

SEEDS Asia dispatches staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In March and April, one of our staff members conducted the following lecture.

Lecture on DRR at 12th Toyonaka Junior High School (In Toyonaka City, Osaka Prefecture)

On 12th March, Ms. Mitsuko Otsuyama, Head of Overseas Operation of SEEDS Asia, delivered a lecture with the title "Spreading Seeds of DRR from Kobe - for no more tears in disasters- " at 12th Toyonaka Junior High School, Toyonaka City, Osaka Prefecture.

This lecture is a part of a series of a "Youth Programme" which were organized by NPO Social Guild for building capacity on DRR in the community. Around 30 members participated in the lecture on the day and enjoyed learning DRR through DRR quiz, lecture and exhibition of the DRR Learning Tool Kits which had been brought from Myanmar.

Announcements from SEEDS Asia

In addition to this, emergency bags from various countries where SEEDS Asia operates projects were demonstrated and some emergency foods from Asia were shared for the participants to try eating. The participants liked dried beans from India, saying "This is delicious! I would love to buy this in Japan, too!". Furthermore, the participants were surprised to know that the dried rice which people in Japan used to keep at home during the World War II to cope with the food shortage was widely available in other Asian countries. This lecture enhanced knowledge of DRR and international understanding.

SEEDS Asia dispatches our staff members to organizations on their request for lectures with a wide range of topics that relate to our activities (The fees are to be negotiated). If you are interested in inviting lecturers in DRR, please kindly contact to the persons in charge of Dispatching Lecturers in SEEDS Asia Headquarters (rep@seedsasia.org).



Poster of the lecture on 12th March

New staff member

Philippines-Cebu Office (Yo Kunieda)

Nice to meet you! My name is Yo Kunieda. I start to work for SEEDS Asia in the project in the Philippines from this April.

I acquired a Master of Arts degree in International Cooperation in France, and worked for a Japanese IT company in International Department and Corporate Social Responsibility Department. My dream is to work in a developing country, and I'm very happy that I have become a member of SEEDS Asia.

I have gone to many Asian countries such as Thailand and Malaysia in business trips. I have few experiences with Philippines, such as a trip to Cebu islands 10 years ago, and an experience of working with two Filipinos in my former job. I would like to do my very best to deliver good results!

